

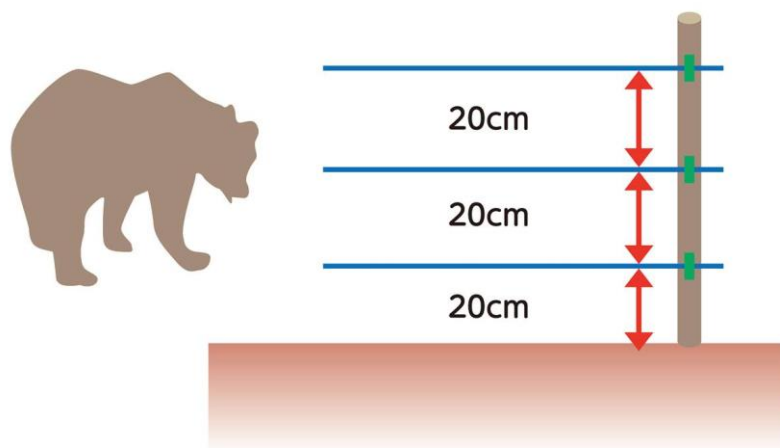
ツキノワグマの効果的な被害対策

西中国山地のツキノワグマは、孤立分布し、生息数が少ないことから、「絶滅のおそれのある地域個体群」とされています。

クマは、植物食を中心とした雑食性で、日の出と日の入りの時間帯に採食行動が活発になります。本来は臆病な動物ですが、とくに夜間は行動が大胆になります。また、ドングリ類が不作年の秋には、餌を求めて人里へ出沒します。被害は、トウモロコシやカキ、クリ、ナシなどの果実、養蜂に発生します。田畑へ放棄された生ゴミやカキ、クリなどがあると誘引物になって、クマを人里へ引き寄せてしまいます。そのため、生ゴミの適正な処理や不要な果樹は伐採するなどの誘引物をなくす努力が必要です。また、コンポストは、環境に配慮された生ゴミ処理器ですが、クマを誘引する場合がありますので、電気柵で囲うか、使用しないことをお勧めします。

畑や果樹園を囲う防護柵のうち、効果があるのは電気柵（図）だけです。木登りが上手なクマは、ワイヤーメッシュ柵などは登って突破します。庭先のカキの幹には、トタンを巻いて登らせない対策も有効です。また、クマによる人身事故を防ぐには、出会わないことが最も大事です。そのためには、クマの行動時間の朝方と夕暮れ時を避けると共に、登山や山菜・きのこ採りなどの際には、クマ鈴やラジオを鳴らして、人の存在をクマに知らせることが重要です。気づいたクマが人から遠ざかってくれます。

(島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 澤田誠吾)



クマ対策用の電気柵の張り方